

農村女性の社会的ネットワークを規定するもの

農水省北海道農業試験場 原（福興）珠里

1. 本報告の課題

社会的ネットワーク研究においては、居住地によるパーソナル・ネットワークの特性の相違は常に中心的なテーマとなって来た。しかし、村落居住者については、あくまでも都市居住者の比較対象としての扱いが主であった。一方、女性のパーソナル・ネットワークの特質としては、親族への依存度の高さや、ライフステージに対応した規定要因の変化などが指摘されて来ている。

しかし、日本の農村における女性のネットワークに関わる実態把握は十分とは言えない。本報告では、農村女性の社会的ネットワークについて事例的にとりあげ、それを規定するものと、ネットワークの現代的意味について検討する。

2. 使用するデータ

1994年12月に、JA静岡市女性部員を中心とした農家女性20名に対して個別面接調査を行ったデータを使用する。調査対象者の居住集落は市街化区域から山間地域まで多様であり、集落内の農家率は2%から73%と大きな違いがある。年齢は39歳から67歳ですべて既婚である。調査では、①家族のプロフィール、②サークル・組織への加入・活動状況、③JAミセスの活動への参加実態と考え、④日常生活における個人のネットワーク、⑤人間関係や女性の活動についての考え、の各項目についてたずねた。

※参照 「JAミセス組織活性化検討調査報告書 静岡市中央会等、1995」

3. 農村女性のネットワークの現状と課題

パーソナル・ネットワークについては個人による差異が大きい。ネットワーク規模（人数）は4名から23名、密度は2.2%から100%、親族の占める割合10%から100%、集落内比率0%から83.3%などとなっている。しかし一方で、道具的サポートを期待する関係は少なく（情報取得を除く）、社会情緒的サポートを機軸としたネットワークを形成している点などの共通性もみられる。

居住集落による相違としては、山間地域においてよりネットワーク密度が高いこと、山間地域以外ではネットワーク形成に関わる個人の志向が大きな違いを生んでいることなどが示唆される。年齢別にみると、年齢が高い方がネットワークが狭い地域に分布している傾向や、行動が自由になりやすい中間的な年代でネットワークの密度が低い傾向がみられる。

ネットワークの個人差の大きさは、個人の志向をネットワーク形成に活かしやすくなっている状況を示している。しかし一方で、居住地・年代による差異は、物理的な行動の制約だけではなく、集落や家族内の規範がネットワークに及ぼす影響を示している。このような状況に対する女性たち自身の認識と、めざす方向性、また地域社会組織が迫られてる転換についても聞き取り調査結果をもとに検討する。